

法学部

学部・大学院5年一貫プログラム (国際関係・国際関係史専攻)

2023年度法学部新入生ガイダンス資料



5年一貫プログラムとは？

- 学士課程4年間と修士課程1年間の合計5年間で、学士号と修士号の取得を可能とするもの。



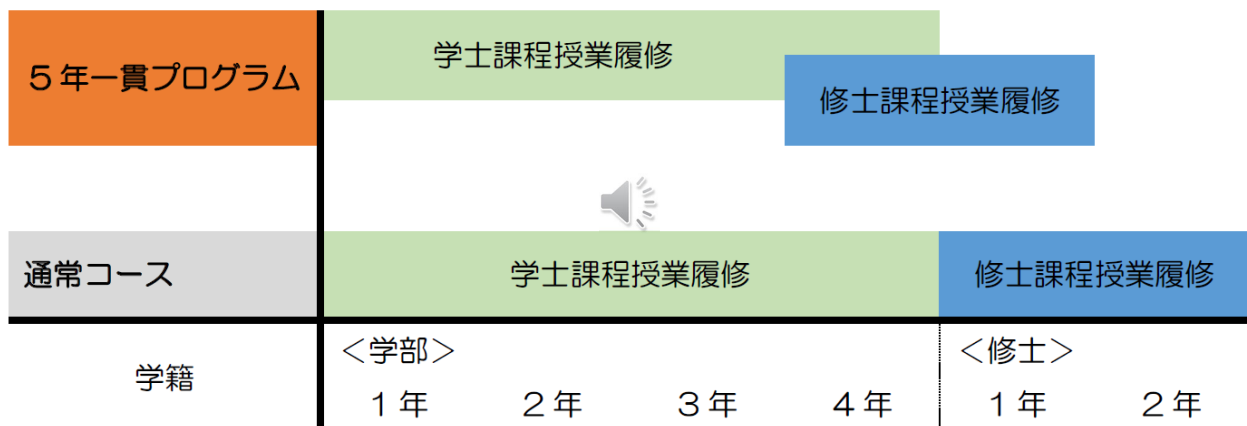
- 対象：修士課程において、国際関係論または国際関係史のいずれかを専攻する本学の学生。
※学士課程においての専攻・コースは問わない。

5年一貫プログラムの趣旨・メリット



- GLPとの連携
- 国際社会で求められる修士号
- 優秀な学生に高度な専門性を後押し
- 博士課程への進学など、将来のキャリアプランの拡張

5年一貫プログラム 概要



- 学部4年+修士1年(学籍番号もこれに準ずる)
- 学部4年次9月の5年一貫正式決定から学部卒業までの間は、5年一貫プログラム在籍証明書を法学研究科事務室にて発行

5年一貫プログラム 概要

【学部4年次】

国際関係分野の大学院科目が履修可能。
16単位まで修士課程修了要件に算入可能。

【修士課程】



1年間で残りの単位修得および修士論文執筆。

【修了要件】

学士課程：総取得単位数124単位以上（ゼミ含む）および卒業論文合格

修士課程：総修得単位数30単位以上（ゼミ、研究指導含む）
および修士論文試験合格

5年一貫プログラム 選抜方法

【選抜者数】：1学年5名程度

【選抜試験】：2段階

- 学部3年次1月

「修士課程特別選抜入試」



学部特別選考」→内定

- 学部4年次4月より、指定された大学院科目の履修が可能

- 学部4年次9月

「法学研究科修士課程入学試験」
→合格後確定



ナンバリング	科目名	単位	教授言語	学部・大学院で合同で開講する科目名
JG-D503	国際法特殊問題C	2	英	(IPP) Community Interests and International Law I
JG-J414	EU法特殊問題	2	英	(IPP) Regional Studies, (学) EU Law
JG-D505	EU論特殊問題	2	日	(IPP) EU論
JG-D507	国際安全保障特殊問題	2	英	(IPP) International Security Policy
JG-D508	リサーチ・メソッド特殊問題	2	日	(IPP) 政策分析の技法I
JG-D509	国際政治理論特殊問題	2	日	(IPP) 国際政治学基礎論
JG-D510	ヨーロッパ国際政治史特殊問題	2	日	(IPP) Regional Studies II
JG-D511	アメリカ政治外交史特殊問題	2	日	
JG-D512	中国政治外交史特殊問題	2		
JG-D513	日本外交史特殊問題	2	日	(IPP) 日本外交政策論
JG-D514	東アジア国際関係史特殊問題	2	日	(IPP) 東アジア国際関係, (LS) 国際関係学
JG-D515	政治学特殊問題	2	英	(IPP) Japan's Foreign Policy Making I
JG-D402	Special Case Study on International Security	2	英	(学部)(HGP) Case Study in International Security
JG-D401	Special Issues in Theories of Global Governance	2	英	(学部) Global Governance (IPP) Global Governance Theory
JG-J412	Euro-Asia Summer School	2	英	(学部) GLP国際セミナー(ベルギー) (IPP) Euro-Asia Summer School
JG-D519	Special Case Study on International History	2	英	(IPP) History of International Order
JG-D403	Special Case Study on International Political Economy	2	英	(学部)(HGP) Case Study in International Political Economy
JG-D520	Special Issues in International Political Economy	2	英	(IPP) International Political Economy I

モデル・ケース

【ケース①】: GLPコースとの連携

- ・ 2年次からGLPに参加し、3年次にGLPとして留学
- ・ 留学先で5年一貫プログラムに応募、スカイプ面接
- ・ 帰国後、4年次9月の修士課程試験(面接)を経て、正式に5年一貫プログラム参加。

【ケース②】: 通常のコースからの参加

- ・ 1, 2年次に国際関係、法学の基礎を固める。
- ・ 3年次に5年一貫プログラムに応募し、4年次春学期より指定の大学院科目を履修。

※共通: 4年次に卒論, 5年次(修士課程)に修士論文を執筆

詳しくは「説明会」で

- 通常、年に2回(7月と11月を予定)5年一貫プログラムについての説明会を行います。
- 説明会の開催時期・方法など詳細については、別途連絡します。
- 1年次、2年次の時から説明会に参加して、本プログラムについて検討してみてください。
- 問い合わせは、manabaの「2023年度 法学部新入生」コースまで。
- 参考URL: <http://www.law.hit-u.ac.jp/faculty/5years>

【参考】 出願資格

- 学部特別選考実施時点で、一橋大学法学部3年次に在籍しており、翌年度3月に卒業見込みの者。
ただし、長期海外留学中あるいは海外留学予定の者については、学部特別選考実施時点から2年後の3月に卒業見込みの者とします。
- 国際関係論または国際関係史のいずれかを修士課程での希望専攻分野とする者(出願時点での所属コース・ゼミは問いません)。
- 法学部科目の単位を、3年次の夏学期までに50単位以上修得している者。

【参考】修士課程 指導教員

国際関係論	国際関係史
<ul style="list-style-type: none">• 山田敦• 秋山信将• 大林一広• 市原麻衣子	<ul style="list-style-type: none">• 青野利彦• クォン・ヨンソク

【参考】その他留意事項

- 学部特別選考に合格すると、4年次には国際関係論・国際関係史分野の大学院科目（一部例外あり）の履修が認められ、修士課程特別選抜入試に合格すると、4年次に修得した大学院科目単位のうち16単位までが、修士課程修了要件に算入可能となります。
- 4年次に長期海外留学を行う学生も、5年間での学士課程・修士課程修了が制度上可能となっています。
- 5年一貫プログラム参加希望者のうち留学を予定している学生は、帰国から卒業論文提出までにあまり時間がないことが想定されます。卒業論文はできるだけ留学前の3年生の段階で執筆を開始しておいて下さい。